

平成 31 年 3 月 1 日
 福岡管区気象台

この冬の九州北部地方（山口県を含む）の気温が 過去最高となりました

○2019 年冬の 3 か月平均気温は、福岡、佐賀、大分、日田および萩で、統計開始以降、最も高くなりました。

○九州北部地方（山口県を含む）の地域平均気温についても、統計開始以降 2007 年冬と並び過去最高タイとなりました。

2019 年冬（2018 年 12 月～2019 年 2 月）の九州北部地方（山口県を含む）は、一時的に寒気が入る時期があったものの期間を通じて気温は高く経過し、3 か月平均気温はかなり高くなりました。

1. 福岡、佐賀、大分、日田および萩で、冬の平均気温が最も高くなりました。*1

表 1 九州北部地方（山口県を含む）で冬の平均気温が最も高くなった地点

地点名	平均気温 (°C)	平年差 (°C)	これまでの 1 位 気温°C (年)	統計開始 (年)	平年値 (°C)
福岡	9.2	+1.6	9.0 (2007)	1891	7.6
佐賀	8.3	+1.8	8.1 (2007)	1891	6.5
大分	8.7	+1.5	8.6 (2007)	1888	7.2
日田	6.6	+1.6	6.5 (1998)	1943	5.0
萩	7.8	+1.4	7.8 (1993)	1949	6.4

2. 九州北部地方（山口県を含む）の冬の地域平均気温が過去最高タイを記録（平年差*2+1.4°C）

表 2 九州北部地方（山口県を含む）の冬の気温が高かった年（統計開始 1947 年冬）

	2019 年冬 平年差 (°C)	これまでの 1 位 2007 年冬 平年差 (°C)	これまでの 2 位 1954 年冬 平年差 (°C)
12 月	高い (+1.1)	高い (+0.7)	高い (+1.1)
1 月	高い (+1.2)	高い (+1.0)	かなり高い (+1.7)
2 月	高い (+1.7)	かなり高い (+2.4)	平年並 (+0.5)
冬 (12 月～2 月)	かなり高い (+1.4)	かなり高い (+1.4)	かなり高い (+1.2)

地域平均気温平年差の経過等は、別紙 1 を参照してください。

3. 高温になった要因

気温が高温となった要因は、西日本付近で偏西風が北へ蛇行したため、寒気の流れ込みが弱く、暖かい空気に覆われやすくなったためと考えられます（別紙 2 参照）。

*1 九州北部地方（山口県を含む）の気象官署、特別地域気象観測所を対象として掲載しています。

*2 地域平均気温平年差は、いつもの年（平年）と比べてどのくらい暖かい・寒いかを地域全体でみるもので、九州北部地方（山口県を含む）の 16 地点における気温の平年差を平均して算出しています。

問合せ先：福岡管区気象台気象防災部
 地球環境・海洋課 担当：川口
 電話 092-725-3613 FAX 092-761-1726

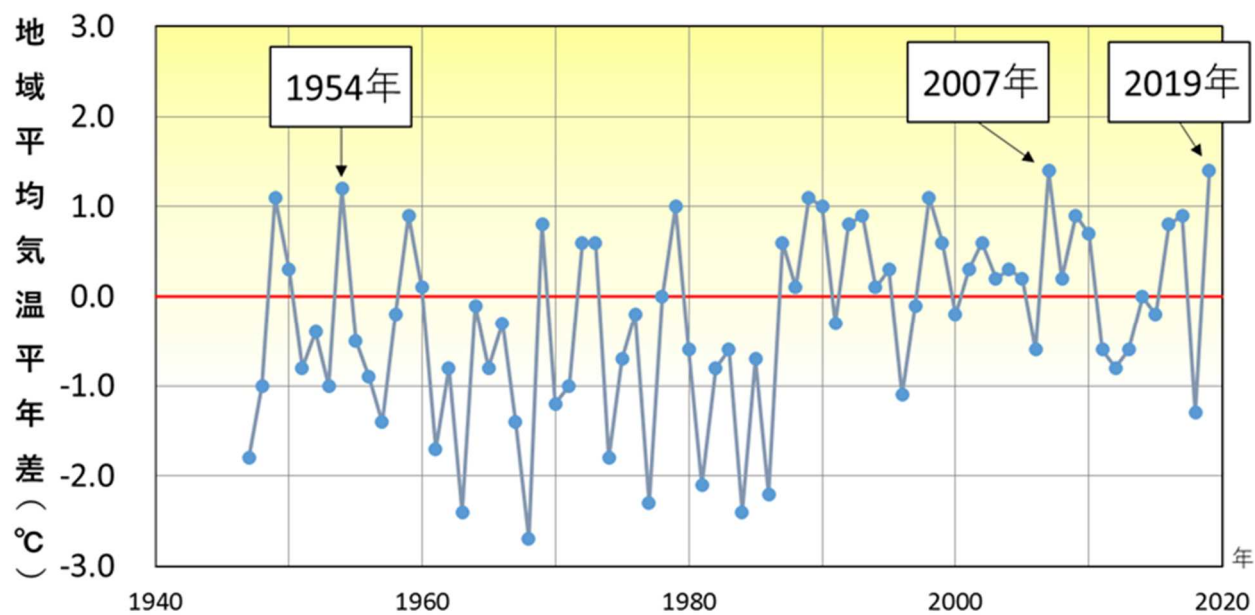


図1 九州北部地方（山口県を含む）の冬（12～2月）の地域平均気温平年差の経年変化
（統計期間：1947年冬～2019年冬）

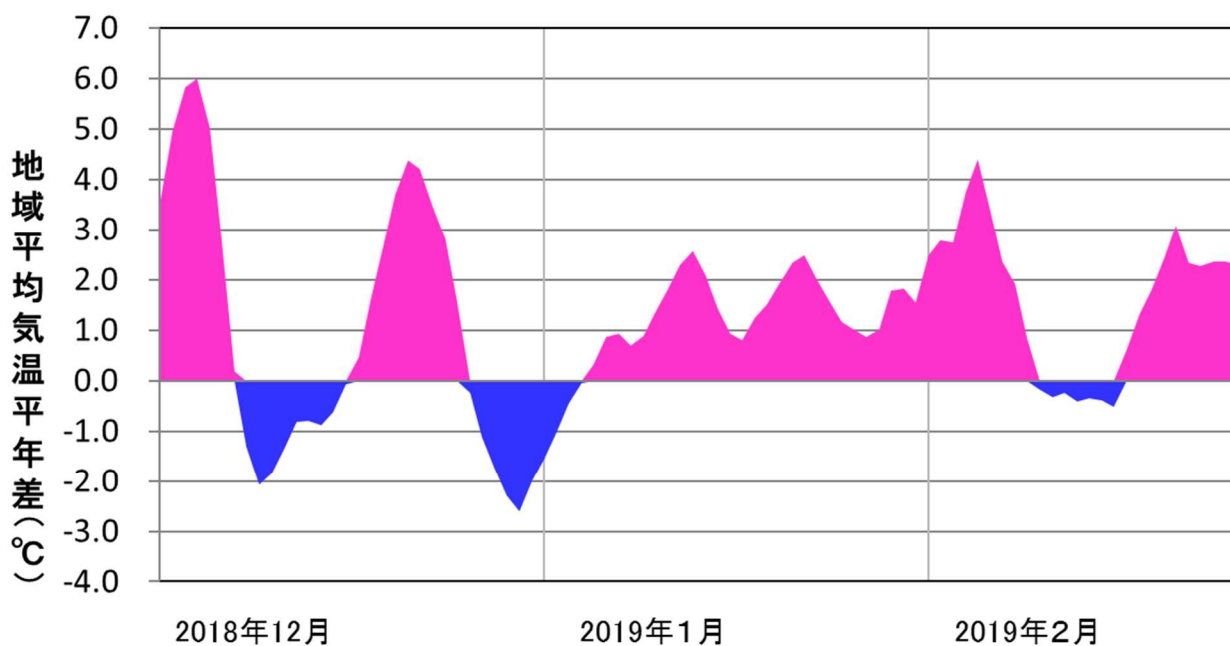


図2 九州北部地方（山口県を含む）の地域平均気温平年差の時系列（5日移動平均値）
（2018年12月～2019年2月）

地域平均気温平年差は、いつもの年（平年）と比べてどのくらい暖かい・寒いかを地域全体でみるもので、九州北部地方（山口県を含む）の16地点における気温の平年差を平均して算出しています。

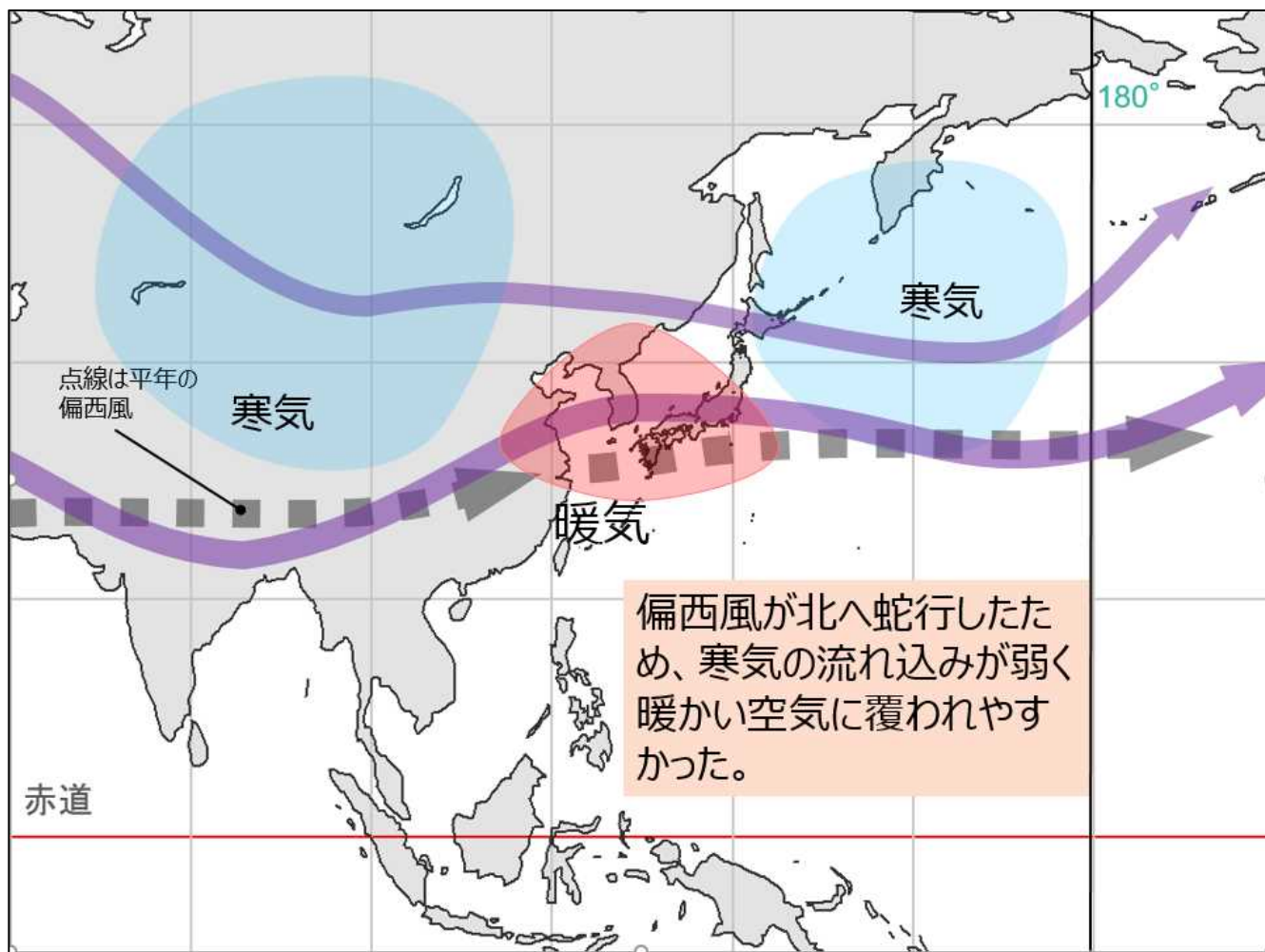


図3 この冬の平均的な大気の流れの模式図

西日本付近で偏西風が北へ蛇行したため、寒気の流れ込みが弱く暖かい空気に覆われやすくなったためと考えられます。